

## IoT 新時代の未来づくり検討委員会 人づくり WG 障害者 SWG (第2回)

○日時：平成 29 年 12 月 14 日(水) 15:00~17:00

○プレゼンター

- ・株式会社アップルファーム 渡部様
- ・国立研究開発法人情報通信研究機構 柏岡様
- ・熊谷構成員

○主な議論

- ・(障害の「社会モデル」の考え方から社会的障壁の除去を指向するに当たり、障害のある方の内面について、その「自伝的記憶(これまでの人生における体験についての構造化した記憶)」が統合されていないとの課題についても検討する必要があるとの議論について) 障害者の方が選べる選択肢を増やすこと(ケイパビリティ)、また、その選択肢の中からどれかを選び、自己実現につなげていくこと(実践理性)、の双方が必要であるが、どちらかということではなく、両方を支援していくことが必要。
- ・農家の方、障害者の方の双方を調整するためには福祉に関するコーディネーターが必要であるが、福祉に携わる方は、「障害者だからできない」という言い訳をしがち。企業として成り立たせるからには、「できたから買って」ではなく、売れるものを作るという結果責任を考え、高いクオリティを保つ必要がある。福祉に甘えないことが最も重要。
- ・400 万人の精神障害者の雇用が 4.5 万人しかなく、コミュニケーションツールとしての AI 等を使うことにより、ここに大きな伸びしろがあるのではないかと。
- ・フェイス・トゥ・フェイスで直接当事者同士が会うことに困難を感じる自閉症の方々等が、インターネットを利用することにより、初めて当事者同士でグループを形成するなど、見えにくい当事者同士のコミュニティ形成に ICT が有効に機能している例がある。
- ・BMI の実用化は先だが、現時点で、スポーツ関係や医療関係など、民間企業と共同で研究や商品提案をしている事例がある。
- ・障害者の支援員や介護関係者の離職率が高いことは大きな問題になると考えている。
- ・機械化や AI 化が進むと、これまで大企業で単純な仕事として障害者に任された部分が機械に置き換わるため、一般的には障害者の職場が少なくなる方向に働く。他方で、そうした単純な仕事を行っている障害者は幸せをあまり感じられていない。一人の人間としてやりがい、生きがいをどう感じてもらうか、それを実現するために技術がうまく活用できればいいのではないかと。